

## 日本での交換留学

国立台湾大学

陳 柏穎 (チン ハクエイ)

今回の留学で初めて日本に来るだけでなく、初めて国をはなれたんです。ですから、非常に緊張していました。飛行機を降りてから、電車に乗っているとき、周りの人たちは全部日本語をしゃべっています。日本では日本人たちが日本語をしゃべっているのは当然のことを頭ではわかっているけど、初めてだから、急に日本ドラマの世界に飛び込んだような気がして、びっくりしました。その衝撃はたぶん留学の実感ということですね。一週間後だんだん慣れてきて、学期も始まりました。



この一学期の間に、主に日本語の授業を履修しました。二つの古典文学の授業で、文学自体の内容や日本の起源、歴史、文化などをもっと深く理解しました。日本語能力を向上させるために、漢字と文法を勉強しました。勉強しながら、自分の不足を気づきました。帰国後、引き続き頑張りたいと思います。また、文化の授業で、いろんな国からの友達たち

ちや日本人のクラスメイトなどと自分の文化をシェアしたり、お互いの文化の違いを話し合ったりして、楽しい時間を過ごせました。昔より異文化理解をより一層深めた気がします。授業以外の時間、山岳愛好会雷鳥を入りました。東大とお茶大とのみんな一緒に登山に行ったり、部会で登山についての知識を習ったりしました。

今回の留学で日本に来る前に、日本語を勉強し始めてもう三年半ですが、台湾にいるとき、日本語の授業を受けたり、日本語劇公演のために日本語でEメールを書いたり、日系企業でインターンシップをしたりして、できるだけどんどん日本語を使う機会を探していました。それにしても、日本語を勉強する意味が分からなくなっちゃって、迷っていたことが時々あります。少し大げさかもしれないが、この四

か月間に初めて日本語を学んで本当に良かったと思えました。日本人の友達との付き合いはあまり長くないが、言語の勉強のためだけでなく、友達としてお互いに悩み相談したり、挨拶したり、出来事を話したりするとき、本当に今まで勉強する甲斐があったと思っていました。また、大好きなバンドを見に行き、トークを聞いてわかる時、日本語で話す人との繋がりを感じていました。日本語はまだただけど、その日本語を学んで本当に良かった瞬間はこれからずっと私の心の支えになると信じています。私にとって大切な一生の宝物になりました。



最後に、お茶大の優しい先生たちはいつも助けていただき、本当にありがとうございました。お茶大の学生たちと留学生のみんなと出会ってよかったと思います。